

早稲田文理専門学校

学校自己評価報告書
(平成28年度)

平成25年3月文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」

評価項目一覧

1. 学校の教育目標

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
(専門分野の特性が明確になっているか)
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

(2) 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3) 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

(4) 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6) 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

(8) 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

(10) 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

(11) 国際交流

- 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか
- 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
- 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか
- 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

平成25年3月文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、平成28年度の活動について、平成29年6月に以下の通り、学校自己評価を実施しました。

1. 学校の教育目標

〈教育理念〉

21世紀の日本と世界で、新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成する

〈校訓〉

「自主・創造・誠実 ～学び続ける者だけが成功する～」

「自主」とは「自分の頭でものを考え、自らの行動に責任をもつ」こと

「創造」とは「自らの希望と夢を追求し、創造的に生きる」こと

「誠実」とは「人との約束を守り、誠実に生きる」こと

〈教育方針〉

「一人ひとりを大切にし、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを教育の基本とする。

授業は“親切・丁寧・わかりやすく”をモットーとする」。

〈教育目標〉

1. 産業界が求める専門知識、専門スキルの修得
2. デザインを形にできる能力の育成
3. コミュニケーション能力の育成と人間的成長
4. 希望者全員の就職

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度においても、学生の成長（教育の成果）、教職員の成長、学園の成長という「3つの成長」を持続的に達成していくことを基本とし、社会の要請や時代の変化への対応を図ることを図りながら、さらなる教育の質の向上を重点目標とした。

(1) 業界の求める人材像育成へ向けての学修成果の測定

- ①教育課程編成委員会や産学連携企業からの意見を取り入れ、各学科の業界ニーズに適合した育成すべき人材像を「学科の目的」として定める。
- ②修業年限に於いて各学年・各学期で期待される学修成果（Expected Learning Outcomes）を「目標」として定める。
- ③学修成果の達成状況（Achieved Learning Outcomes）を「指標」とし、学科ごとの目標資格、校内検定、総合力テスト、学外コンテスト等から測定していく。

(2) 体系的なカリキュラムによるわかりやすい授業の展開

- ①「専門知識」「専門スキル」「ヒューマンスキル」を総合的に修得できるカリキュラムを実践する。
- ②教員相互の授業観察（ピアレビュー）および学生による授業評価を定期的実施していく。授業評価については、4段階評価で4（大いに理解できる）が7割以上を目標とする。
- ③学科ごとに関連企業や団体との連携を強めていく（全学科で産学連携企業による授業を取り入れる、連携企業から評価やアドバイスを頂きながら作品制作を進める、旅行博等業界団体主催の展示会に参加する等）。

(3) 学生指導の充実

- ①校長－副校長－学科長－クラス担任－学生指導担当が連携し、学生一人ひとりに対し、親身になった支援・指導を行う。
- ②スマートフォンを利用したクラスメールのシステム構築を進める（学籍番号をアドレスとするG-mailの導入等）。

(4) 就職希望者全員の就職

- ①学生の希望や適性、学力や能力等を考慮し、本人との面談や指導を通じ、進路目標をより明確かつ具体的にさせ、一人一人に対してきめ細かい指導を行う。
- ②複数の企業を招いての「校内合同企業説明会」を定期的実施する他、個々の企業を招いての説明会、面接会を積極的に実施していく。
- ③学校に届いている求人情報をデータ化し、学生が自主的に求人検索できるシステム作りを検討する。

(5) 広報・学生募集

- ①多様化する受験生の情報収集活動に適合させるため、学校 Web サイト、SNS での情報発信をより強化する。
- ②日本人、留学生ともにオープンキャンパスを実施し、学校の教育内容や成果を知らせるとともに体験授業を行い、学科内容に意欲ある学生を獲得する。
- ③留学生については、年々増加する入学希望者数に対応するため、2段階選抜方式を採用し、Web による出願を検討中である。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
b	学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
c	社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	学校の理念・目的・育成人材像は特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
e	各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

②現状

- a. 学園創設者の経営理念と教育理念に基づき、教育方針・教育目標は明確に定められている。平成 28 年度は学園創立 30 周年を迎え、今日の社会や業界の状況に応じた理念および教育目標、育成人材像が新たに示され、教職員全体会議を通じ、全教職員に徹底している。育成人材像は学科の専門性を考慮した上で明確に定められている。
- b. 当校の特色は、デジタルコンテンツのクリエイター、ビジネス起業、IoT・組込みソフトウェア技術者、インバウンドの通訳・ガイドなど新たな成長分野の人材育成を目指した学科構成であり、学科毎の育成人材像については、学科長が具体的に実現プロセスを示した「学科の目的・目標と計画」として作成されている。
- c. 経済のグローバル化に対応できる国際人材の育成を目指して、留学生の受け入れを積極的に行っている。また 2 号館の開設を活かし、新学科の設立や学科の定員増加を検討している。将来的構想として「専門職大学院」の開設を視野に入れ、計画中である。
- d. 教育理念や教育目標は、学校 Web サイトや学生募集用の「学校案内」等に明記することを通じ、学生・保護者に周知を図るとともに、学生には入学時および進級時に配布する「オリエンテーションガイド」に記載し、毎年オリエンテーションにて確認している。
- e. 各学科の教育目標や育成人材像に関しては、学科ごとに連携している企業から業界のニーズや動向をヒアリングした結果を元に作成を行っている。

③課題と改善策

- ・学園と学校の組織的な運営を目指し、教職員に対して業務における「PDCA サイクル」の意識付けを確立していく必要がある。

(2) 学校運営

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
c	運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
d	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
e	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
g	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

②現状

- a. 学校の運営方針、目的、目標等については明文化されており、それに基づき、副校長、学科長による定期的な部門長会議にて目的、目標に沿った校務運営を進めている。
- b. 事業計画は、運営方針に基づき、毎年関係部門にて作成されており、その進捗状況は各部門長、担当者より月次報告として理事長・校長に毎月提出されている。
- c. 理事会・評議員会での意思決定事項は寄附行為について定めており、主要項目については理事会・評議員会にて決定している。日常の業務運営については理事長・校長の下、副校長、学科長、各部門の主事・主任にて、適切な意思決定、組織運営を行っている。
- d. 年度当初に校務分担の中に教務担当、財務担当等を配置し、上司への報告・連絡・相談、稟議書等により適切に意思決定が行われている。
- e. 人事考課制度、給与制度、就業規則等の規定については整備され、定期的に見直しがされている。
- f. 関係法令の遵守のみならず、社会規範の遵守についても、教職員に適時適切に指示・訓示を図っているとともに、学生に対しても全校集会・ホームルーム等を通じて、きめ細かく指導している。
- g. 本校の概要や教育活動等を広く理解していただくために、「学校基本情報」や「学校関係者評価報告書」等の情報を学校 Web サイトにて公表している。また、学校の行事や各種イベントについては個人情報保護に配慮の上、学校ホームページに掲載している。学園

理事会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などにおいて、関係者に対して報告、説明が行われている。

- h. 校内開発システムを、学生の出席及び成績管理、教職員の経費精算などに活用している。教務共用サーバーにて教職員の共有化を図り、業務の効率化を推進している。また、クラウド上で動作するグループウェア「Aipo」を活用し、教職員がいつでもどこでも学内スケジュールや個人の予定を確認することができるようになり、組織の活性化に役立っている。

③課題と改善策

- ・学生の出席を管理している校内開発システムの運用については、常に良好な状態で業務遂行ができるように、メンテナンスおよびセキュリティ体制の確立が必要である。

(3) 教育活動

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
e	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
g	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
h	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
i	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
j	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4
l	関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4
m	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	4
n	職員の能力開発のための研修などが行われているか	4

②現状

- a. 一人ひとりを大切に、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを教育の基本とし、教育課程の編成、実施計画等を策定している。
- b. カリキュラムは既定の修業年限に対応した学習時間とともに作成されている。また、昨年度より各修業年限における到達レベルの把握を目的とした「総合力テスト」を実施している。成績優秀者は一覧にし、ロビーに掲示している。
- c. 学科等のカリキュラムは各修業年限における到達レベルの目標を考慮したうえで設定されており、1年生「基礎」2年生「実践」と体系的な構成となっている。
- d. 各学科ともに関連分野の企業・協会と連携し、特別講義の開催や校外学習を実施している。特に、クリエイティブビジネス経営学科では関連分野の企業を講師とした科目を作年度より開講している。また、クリエイター系学科では、チームでのゲーム制作を中心に実施することで、より実際の制作現場に近い環境での実践的な学習を行っている。
- e. 教育課程編成委員会に関連分野の企業・団体からの委員を迎え、客観的なカリキュラム評価・見直し・改善が継続的に行われている。
- f. 職業教育は育成人材像や業界のニーズを踏まえ、知識・技術・ヒューマンスキルの各分野に分類され、体系的に位置づけられている。
- g. 授業評価は、非常勤講師を含む全教員が、お互いの授業を観察・評価しあう「ピアレビュー」と、学生による授業アンケートとの2段階で実施している。
- h. 教育課程編成委員会において各委員より評価をいただき、改善に努めている。
- i. 成績判定会議、進級判定会議、卒業判定会議などの会議が定例的に行われ、評価基準も明確である。
- j. 資格取得については学科ごとに目標とするべき資格を定め、カリキュラム上明確な科目を設定し、授業を行っている。また、目標資格については通常時間割とは別に特別授業を実施し、学生の資格取得を支援している。さらに、難易度の高い検定については準備段階として「校内検定」を設定し、学生の到達度を測る指標の一つとしている。

- k. 学科の教員については、専任、非常勤ともに、授業を行う上で必要な専門性、人間性、教授力と業界経験をもとに採用を行っており、育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保が行われている。
- l. 産業界から教員を招聘し、各学科の教育目標や育成人材像を踏まえた授業を行っている。実務経験豊富な企業の技術者による授業は学生にも好評である。
- m. 各教員に必要と思われる研修などについては、積極的に参加している。また各種展示会などにも関連科目の教員を派遣し情報収集を行っている。
- n. 関連分野の協会・団体が主催の研修会や会合に参加し、新しい知識・技術、業界の動向等を学習している。また、半期ごとに教職員研修会を実施し、各教員が参加した研修会や展示会の報告をしている。

③課題と改善策

- ・特になし

(4) 学修成果

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	就職率の向上が図られているか	4
b	資格取得率の向上が図られているか	4
c	退学率の低減が図られているか	4
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

②現状

- a. 就職に関しては、就職部長を中心に学校全体で取り組んでいる。現在、開校7年目を迎え、就職率は100%を維持、卒業生に占める就職者の割合も年々向上している。複数の企業を招いての「校内合同企業説明会」や、個別の企業説明会等を実施しているほか、平成29年度には就職支援室を開室し、求人情報をデータ化、学生が自主的に求人検索できるシステム作りを検討している。
- b. 学科ごとに目標とされた資格の取得状況について、結果を一元管理し、取得率の向上に努めている。当校在学中に資格を取得した学生については、校内に顔写真とともに掲示することで、他の学生への意欲づけとなるような取り組みをしている。

- c. 退学者は年々減少している。退学率を低減するために、学生指導担当者と担任教員の連携により、個人面談、電話連絡等、きめ細かく行われている。過去の入退学者数推移については、既にデータ化され、明確に管理され活用されている。
- d. 各学科の卒業生が、関連分野の企業等に就職することが出来ており、業界からも学修成果に対して高い評価を得ている。また、留学生の在校生は、平成 28 年 10 月より、目白警察と合同で大規模災害に備えた語学支援ボランティアを育成し、地域に貢献できる体制を構築している。
- e. 卒業後は、卒業生の就職先の担当者とも連絡を取り、それぞれの学生に対する評価をいただき、学習成果の把握に努めている。その結果、改善すべき点については、教育活動の改善に活用されている。

③卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価について

- ・平成 28 年度は、クリエイター系学科より「株式会社エンターテインメントサポート」に就職している。また、電子機器組込みソフトウェア学科より「株式会社アルプスビジネスサービス」、日中英通訳・ガイド学科より「株式会社ゼンショーホールディングス」等に就職している。
- ・クリエイター系学科の学修成果の一つとして、作品コンテストにてネクセンツ賞、アールインフィニティ賞の 2 つを受賞することが出来た。多くの現役クリエイターが直接評価をするコンテストであり、ゲーム作品のクオリティに対して一定の評価を頂くことが出来ている。

④課題と改善策

- ・在校生の社会的活躍及び評価については担任を中心に十分把握ができています。また、卒業生の現状については、卒業生の就職先の担当者からの評価等の一部は把握できていますが、まだ十分であるとは言えない。卒業後のキャリア形成への効果の把握と学校の教育活動の改善への活用については、組織的かつ継続的に行われるような仕組みづくりが引き続き必要である。

(5) 学生支援

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	4
h	卒業生への支援体制はあるか	4
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
j	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4

②現状

- a. 進路・就職に関する体制は整備されており、副校長・学科長・就職担当・クラス担任による進路指導会議を定期的で開催し、個々の学生に対する指導方針を協議し、共有をはかっている。また、具体的な就職指導（履歴書の書き方、面接対策等）については、授業カリキュラムの中に組み込んで、支援を行っている。複数の企業を招いての「校内合同企業説明会」や、個別の企業説明会等を実施しているほか、平成 29 年度には就職支援室を開室し、求人情報をデータ化、学生が自主的に求人検索できるシステム作りを計画している。
- b. 学生相談については、校長—副校長—学科長—クラス担任—学生指導担当が連携し、学生一人ひとりに対して親身になった支援・指導をおこなっている。各クラス担任はクラス全員の学生面談を定期的実施し、個別に状況を確認している。
- c. 学費については、本校独自の学費減免制度の他、前期・後期の分納制度を設けている。奨学金に関しては、日本学生支援機構のものを活用している。また、本校独自の学習奨励金制度を設けており、優秀な学生に対し修学を促している。さらに、学業や、社会活動、資格取得など様々な場面で成果を挙げている学生を評価し、学生の意欲を高めることを目的に、表彰制度を設けており、卒業式において表彰を行っている。

- d. 定期健康診断を毎年、学校行事に組み込んで確実に実施している。学校の近隣のクリニックで定期健康診断を行っており、学生が健康相談等を必要とした際は、このクリニックを利用している。クラス担任や学生指導担当が連携して、必要に応じて病院への付き添い等も行い、日常的に学生の健康管理に留意している。
- e. 卒業旅行、バーベキュー大会、スポーツ大会、文化交流会等、校内行事は毎年、定期的に授業時間内で実施をしている。授業時間外の課外活動については、学生からの申し出があれば随時支援をする体制ができている。また、アルバイトについては、定期的に内容や時間について調査や指導を行い、必要であれば紹介も行っている。
- f. 本校と提携した学生寮の紹介を行っている。その他、学生からの依頼があれば、部屋探しの方法を指導している。
- g. 入学が決まった際には、必ず実家の保護者に電話連絡を行っている他、随時、連絡を密にしている。
- h. 卒業生からの希望に応じ、個別に資格取得や再就職先の支援を行なっているほか、留学生に対してはビザ取得の支援等を行うなど、卒業後も継続してフォローをしている。
- i. ゲームクリエイター学科では、デュアルシステムによる社会人の受け入れを行っている。
- j. ゲーム・CG業界と専門高校との連携体制を構築し、高校への出前授業や企業講演の実施、高校生インターンシップの受け入れ、専門高校教員向けの技術講座や教員研修を実施した。

③課題と改善策

- ・就職を果たした卒業生に対しては、就職先の企業の担当者に協力いただいたうえで、インタビュー等を実施し、学習成果の把握に努めている。同窓会等の体制を整備することについては、引き続き検討する。

(6) 教育環境

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
b	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
c	防災に対する体制は整備されているか	4

②現状

- a. 平成 26 年度に実施した実習室の増設、パソコン入替、学生用イスの入替等による教育環境により、施設・設備は整備されている。また、平成 28 年度より 2 号館の一部教室の利用を開始し、さらなる設備の充実を図っている。
- b. インターンシップに関しては、外部の関係機関と連携し、積極的に実施している。インターンシップ実施許可願いを作成し、校長の許可を得てから実施をしている。インターンシップ実施後は先方の企業の協力を得て、学生評価票と研修報告書を作成し、成績評価を行っている。また、今後は東京商工会議所が大学生向けに発行している『インターンシップ・職場体験ハンドブック』を専門学校向けにアレンジし、短期間のインターンシップ等について企業に提案していくなど、教育体制の整備を計画している。学外研修については、学科毎に年 2 回程度、実施している。
- c. 教職員による消火訓練の実施、学生の防災訓練を実施している。防災訓練の際、災害発生時における具体的行動のマニュアルを配布し、学生に説明を行っている。
また、開校時より AED を設置し、平成 28 年度までに 2 日分の災害時備蓄品（水・食料・簡易トイレ・ブランケット等）を確保している。さらに、教職員は順次普通救命講習を受講し、心肺蘇生法の習得、AED を使用できる体制を整えている。

③課題と改善策

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学生募集活動は適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

②現状

- a. 学生募集は入学希望者およびその保護者のニーズに対して適切に行われている。
東京都豊島区学事課の指導及び東京都専修学校各種学校協会の申し合わせ事項を守り、個人情報の取り扱いや入学願書受付期日等に留意し、適正に実施している。
学校案内、募集要項等については、見やすさと分かりやすさを考慮の上、社会ニーズに合わせ毎年改定を行っており、読む側の視点に立ったものになっている。
また、日本語学校の教職員向けの入学説明会を実施し、学校の情報提供を行った。
開校6年目の昨年度の募集活動では、募集定員の3倍以上の応募者があったことから、入試システムを一部改訂し、速やかに選考を行った。
- b. 高校や日本語学校が主催する進学説明会等において、学校案内や資料を用いて最新の教育内容や教育成果を伝えている。また、オープンキャンパスでは、学科ごとの入学から卒業までの教育内容やカリキュラム、卒業してからの進路状況について説明を行っている。
- c. 学納金は都内の近隣の専門学校と比較しても非常に低く設定されており、妥当なものとなっている。入学辞退者については、辞退理由と時期に応じた規定によって、適正な返還処理を行っている。また、学納金については、入学金、授業料、施設設備費等すべてを募集要項に明記している。体験授業による学科の特色ある学生募集を行っており、入学後に受講できる実習教育の内容を明確に示している。

③課題と改善策

- ・特になし

(8) 財務

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

②現状

- a. 財務基盤は計画的に強化され、安定したものとなっている。その結果、負債比率、負債償還率は文部科学省の大学設置基準の財務基準をクリアしている。
- b. 予算、収支計画は無理のない実現可能な計画を策定しており、予算と実績間に大きな乖離は発生していない。
- c. 会計監査は、実務に精通した前事務局長を監事とし監査を厳正かつ適正に実施している。
- d. 常に最新の財務情報をホームページに公開している。

③課題と改善策

- ・特になし

④特記事項

- ・情報公開については、学校法人単位での公開となっている。

(9) 法令等の遵守

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
c	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

②現状

- a. 寄附行為・経営理念・教育理念等において法令や専門学校等設置基準の遵守を明記しており、教職員研修会等の実施時に徹底を図っている。また、学校として、厳密な法令遵守のための指導を行っているが、特に外国人留学生に対して、日本の法令等を理解させ、守らせるように、さらに積極的に啓発していく必要がある。
- b. 個人情報保護方針にもとづき、各種対策を実施している結果、個人情報漏えい事故は発生していない。また、マイナンバーの取扱いについては極めて厳格な対応を行っている。
- c. 自己評価にあたっては、学校長を委員長とする「校内自己評価委員会」が中心となり、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」(平成 25 年 3 月)により、毎年定例的に実施している。自己評価結果は、関係教職員が問題点の改善に努めている。
- d. 学校自己評価報告書及び学校関係者評価報告書は、学校の Web ページに掲載することにより公開している。

③課題と改善策

- ・個人情報の取り扱いについては、今後も教職員にプライバシーポリシーについて周知徹底を図っていく。

(10) 社会貢献・地域貢献

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
c	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

②現状

- a. 本校は多様な分野の学科を持つことから、多種多様な教育機関や企業・団体と関わりを持ち、交流を図っている。管轄の目白署や豊島区主催のボランティア活動に積極的に参加し、地域貢献への取り組みを始めたところである。
- b. 学生のボランティア活動に関しては大いに奨励をしている。平成28年度より目白警察署の依頼を受け、定期的に（28年度は3回）「大規模災害の発生に備えた語学支援ボランティア育成」のための講座や実地訓練に教職員が引率し、毎回約20名の学生が参加している。
- c. 開校前の平成21年度より東京都の委託を受け、再就職を目指す社会人の職業訓練を実施し、IT、医療、簿記等の分野で高い成果を挙げてきた。現在は委託訓練は実施していないが、今後は学生の授業のない週末および夕方以降に、豊島区主催の地域公開講座の開講を検討したい。

③課題と改善策

- ・年々、学生の質が上がり、ボランティア活動への参加意欲のある学生が増えている。今後は地域や身近でできる活動や災害支援など組織規模の大きな活動等について、学生に対してわかりやすく情報提供を行うとともに活動への参加心得を周知徹底する必要がある。

(11) 国際交流

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか	4
b	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
c	留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	4
d	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

②現状

- a. 留学生については、留学生の在籍学校と連絡を密にし、日本語能力、基礎学力だけではなく、適性或学費支弁能力等もしっかりと確認した上で受け入れを行っている。
平成 28 年度は「日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先」を決める、日本留学 AWARDS を受賞した。
- b. 留学生については、入学時から募集要項に則り、個別に相談し、入学後も学則、法令の遵守および日本での生活も含めて指導している。
- c. 学生の学修・生活指導については、クラス担任と学生指導担当が協力して、継続的な面談や日々の声かけ等で留学生とのコミュニケーションに努めている。また、毎週、担任会議において学生動向について情報の共有化を図っている。
- d. 育成人材像をもとに学修成果を評価するしくみは学科ごとに作られており、学外のコンテストにも積極的に参加をしている。平成 28 年度は一般社団法人全国専門学校情報教育協会主催ビジネスプロデュース・コンペティションでマーケティング賞を受賞した。

③課題と改善策

- ・学修成果が国内外で評価される取組みについては、学校ホームページを一層活用し、情報発信を強力に行なう必要がある。

